

市保育士派遣期間に関する説明会の要旨について

1 開催日時及び開催場所

- 1 回目 平成 30 年 6 月 16 日（土） 午後 3 時 ～4 時 35 分
豊田保育園ホール 出席人数 22 人
- 2 回目 平成 30 年 6 月 18 日（月） 午後 6 時 ～7 時 20 分
豊田保育園ホール 出席人数 15 人

2 出席者

日 野 市：子ども部長 篠崎 保育課長 中田 係長 石原
ねぐるみ会：豊田保育園 馬宮園長

3 配布資料

説明会用配布資料（市・ねぐるみ会）のみ

4 説明（要旨）について

説明会開催の経緯について、中田課長から説明

- 今年 4 月に豊田保育園が開設し、新園舎での保育が始まってから 2 か月半が経過した。これまで保護者の皆様には、円滑な民営化を進めるにあたり様々な課題の解決に向けてご理解とご協力をいただき重ねて御礼申し上げます。
- 4 月の新園での保育開始以降、市は旧とよだ保育園に所属していた保育士 4 名を、民営化後の移行支援を目的に豊田保育園（2～5 歳児クラス）に派遣している。現在では、お子さまたちが新しい環境に慣れ、順調に保育が進んでいる様子も報告されている。
- また一方では、これまでの民営化に向けた取り組みや、民営化後の取り組みが保護者のお一人おひとりに十分にお伝え出来ず、状況が分からないといったお声、ご心配のお声もいただいている。
- こうした状況を踏まえ、あらためてこれまでの取り組みや現在の保育の状況および今後の取り組みについて皆様のご理解をいただけるよう、説明会を開催させていただいた。

（1）これまでの主な取り組み（日野市、中田課長）

- 資料は、以前役員さんを通じて保護者の皆様にお配りいただいておりますが、すでにご覧いただいているかと思うが、4/26 付で作成した文書をもとに、現在の状況を加えて作成してある。内容については重複する部分があるが、ご了承いただきたい。
- とよだ保育園の民営化については、ガイドラインに基づき、保護者・ねぐるみ会・日野市の三者で協議をしながら、課題を 1 つ 1 つ達成してきた。皆様のご協力により、お子さまがより安心できる条件が整ってきた。

- 表に主な項目と対応についてまとめているが、例えば、民営化前の合同保育期間について、ガイドラインでは6か月前から週3日以上配置することと規定されているが、実際の対応としては、円滑な移行が進むよう、ねぐるみ会からの申し出により、1年前から週5日体制とすることとなり、市としても追加の財政支援を行うことで、より充実した合同保育を実施してきた。
 - また、皆様も大変ご心配されていた、園長、副園長人事については、馬宮園長と土方副園長の継続が決定した。
 - さらに、保育士の経験年数についてはガイドラインでは、5年以上の経験者を1/3以上配置することを条件としているが、実際の対応としては、ねぐるみ会において、計画的に保育士採用を進め、合同保育に入った保育士4人全員が5年以上の経験を持つ保育士を配置することができた。
 - 保育方針や年間行事なども、公立で行ってきたものをしっかり引継ぐことができた。
 - また表の欄外に記載しているが、園舎完成後には、子どもたちが早めに環境に馴れるよう、前向きになれるよう、事前に園舎や園庭の見学なども日常の保育に織り交ぜながら行ってきた。
- こうした1年間の取り組みに加え、昨年11月頃には、これまで一緒に働いていた、旧とよだ保育園のことを良く理解している臨時職員についても、ほぼすべての方が、新園に移行できる目途が立った。こうして、臨時職員も含めた職員体制がほぼ従来どおりの体制のまま移行することができ、子どもたちに大きなストレスをかけずに、安定した運営が実現できる見通しをもって4月を迎えることができた。
- 4月に入ってからは、子どもの生活の様子、担任保育士の保育状況、保護者との関係、園全体の運営状況を拝見し、皆様ご存じのとおり、順調に保育が進んでいる様子を確認している。

(2) 現在の園の様子（ねぐるみ会、馬宮園長）

2ページ目の表にある通り、4/17の三者協議会でお子様様子を報告し、現在の様子についても記載した。先生達からの話を聞き、園長として感じるところをまとめた。

【きりん組】

- 以前と大きく変わることなく、自分の好きな遊びを存分に楽しんでいる。当番・日直活動を中心に自分たちで生活を進める力がついてきた。朝はホワイトボードを使って一日の流れを確認している。
- 友達とも楽しく関わっており、卒園児との関わりの中でドッチボールや縄跳び等を教えてもらい、やる気を見せている。
- 各クラスの成長を保護者の皆様に見ていただけるように、園舎内の通路に絵を飾っている。喜びや楽しさが伝わってくる。
- 参観日の、保護者からの感想。落ち着いて話を聞いているので、安心した。担任にも慣れていてよかった。園舎が整っていて明るい。職員が多くて覚えきれない。等

【くま組】

- 園舎や遊びのルールが分かってきた。やんちゃ盛りで、虫が大好きなクラス。保育の中では、子どもがその時興味のあることを題材にし、目先を変えながら繰り返すことで子どもの理解が重なるという事を実施。子どもたちのやるべきことの見通しが立った。
- 絵を描くなど作業するときに、楽しいと感じさせることが大切。今のクラスには手を膝に置いたままという子どもは一人もいない。展示しているテントウムシの絵も、幼虫の時から様子を追ってきたので、楽しい内容になっている。
- テラスの窓が大きく、景色に惹かれて子どもが外に出ていってしまう事があるが、子ども同士で外に出ないよう声をかけ合う姿も見られる。
- 参観日の、保護者からの感想。園舎はきれいになったものの、園としては変わっていない印象。子どもが伸び伸びしている。先生の話や座って聞いている。昨年より成長を感じた。箸の持ち方などを絵で示す指導方法など、参考になった。等

【うさぎ組】

- 担任の方を向いて座り話を聞く、座って食べる、皆で歌を楽しむなどが出来るようになった。
- 毎朝の朝の会が定着した。朝の会では歌を歌う事になっており、子どもからもリクエストが出るようになった。
- 散歩では手をつないで二人組になり、二人一組で行動が出来るようになった。(例として、道の端に寄る時に、自分一人ではなく二人と一緒に端に寄るという行動)
- 着替えなど、自分でやるべきことをやろうという自覚が芽生えている。
- 夏を境に幼児への成長を感じる年。26人はクラスとして少し多人数と感ずることもある。
- 参観日の、保護者からの感想。園舎には新鮮な気持ちを持ったが、園の様子は今までと変わっていないと感じた。場所の変化の影響は感じない。子どもの数が多いクラスなので、担任二人では心配。ホールを裸足で走れるのはいい経験。昨年よりできることが増えた。等

【りす組】

- 朝の泣き声もなくなり落ち着いてきた。進級児が多いクラスと新入児のクラスで生活のリズム作りは違ったが、両クラスで同じく進められるようになった。
- 毎日の繰り返しの中で、一日の流れが分かってきた。新入児は、まずは園庭に立つことに慣れるという事からのスタートだったが、現在では園庭の特徴を理解している。例えば、皆で集まってアリを観察するなどの様子が見られる。散歩も手をつないでいる。
- 両クラス(進級児・新入児)とも落ち着いてきたので、2歳児クラスを一つの学年として、活動を進めていこうという状況になった。
- 参観日は秋の開催を予定している。

【保育士】

- 4月は子ども・保護者が新しい環境に慣れると共に、先生自身も落ち着くようにという事で、クラスでフォロー役として保育を支えた。
- 5月は、子どももねぐるみ会の先生も園舎に慣れ、保育に慣れ、クラスによってはゆとりも感じられた。

- ねぐるみ会の先生が、自分たちが中心となって保育を進められるようになった。
- 各クラスの生活のリズムが整ったので、6月に入ってから、派遣保育士4名によるフォロー体制に代わり、充実（フリー）保育士を入れる機会を増やした。4月では、フリー保育士3名は事務的な部分の準備に追われていたが、現在はクラスに補充に入った際の留意すべき点など、派遣保育士から引き継ぎを受けている。幸せなことに、副園長含め3名のフリー保育士を配置できている。
- フリー保育士が保育に入り、派遣保育士は旧とよだ保育園から引き継ぐ行事（夏祭りなど）の土台作りを、具体的に進めている。ガイドラインに沿って、旧とよだ保育園の行事を引き継ぐことが出来るので、大事にしていきたい。
- 園としても落ち着いてきており、7月を総仕上げとしている。
- 派遣保育士の派遣期間終了のタイミングは未定であり、急に引かれても困るといった事態に陥らないよう、園としてはいつでも引き継げるよう準備をしてきた。
- 朝夕パートからも、保育の具体的な動きのアドバイスや、自らが他のパートのなり手を探してくれるなど、恵まれた状況。
- 保育園は日々色々なことが起きる。どんな状態であっても、何も起きないとは言い切れないが、精一杯努力して保護者の皆様に安心してもらえるよう保育園運営していく。引き継ぎご理解・ご協力いただきたい。

（3）アンケート意見について（日野市、中田課長）

- 次に、役員の方から、保護者の皆様にお配りいただいた4月26日付け文書に関して、取りまとめいただいたアンケートの中で、職員配置に関するご意見が多かったため、表にまとめた。
- 現在何名の保育士が派遣されているのか、そもそも分からない。というご意見。
- これについては、日野市から4名の保育士を派遣しており、2～5歳児クラスに1名ずつ配属されている。
- 派遣保育士4名が抜けた分の欠員が心配。ねぐるみ会でその分の保育士を確保できるか。現状もしくはそれ以上の人員を確保できるか。というご質問。
- これについては、各クラスには、派遣保育士を除いて、必要なだけの保育士を4月から配置している。派遣の4名は民営化の移行支援のために配置されており、抜けることで保育士が不足することはない。また、職員数は日野市特定保育所運営費支弁要綱（特に1歳児は、国基準の6：1より厳しい5：1を基準としている）で決まっており、豊田保育園もその基準を満たしている。

（4）保育の引継ぎ等についてについて（ねぐるみ会、馬宮園長）

- 先ほどの2（2）保育士の様子、で報告したとおり。

（5）引継ぎ終了後のフォロー体制（日野市、中田課長）

- 民間保育園の運営については、保育という公的なサービスを委託する立場としての市の指導

監督責任が法律上明記されているので、市の保育士の派遣終了後も、市との関係が絶たれるという事はない。

■このことは、ガイドラインにも記載のある通り、

①引き続き、園の運営や保育内容を検証し必要に応じて、指導監督を行います。

②保育士スキルアップに向けて公立との合同研修への参加機会を設けます。

③第三者評価制度の受審を保育所運営法人に義務付けており、評価結果をネット上で公開し、情報開示に努めていく。

■これらの内容について、指導監督する責任ある立場として、今後、日野市が実施していく。

■特に 1 番目の保育の内容については、市が今年度より配置した、公立保育園の園長など豊富な経験を持つ保育コンシェルジュを活用し、今後も継続的に対応していく。また、公立と民間は、現在、園長会や専門職ごとの会議体において、情報交換や意見交換が行われており、常に関わりを持ちながら保育の充実に向けて取り組んでいる。

■昨年度 1 年間の取り組みと 4 月以降の円滑な移行により、安定した保育提供の基盤が整った。今後は、名実ともに豊田保育園として、より一層の保育の充実を目指していただくとともに、日野市としても、保育の実施主体として、ねぐるみ会と連携し、支援していく。保護者の皆様には、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

5 主な質問（要望）及び回答

（1）アンケート意見について

質問 1 アンケートでは、派遣期間は十分ではない、何をもって十分なのかその指標を示してほしい、との意見が出ている。今回も説明会資料を配り、保護者の意見を求めてから最終判断すべき。どう考えるか。

回答 1 現在の職員配置は、本来必要な人数＋派遣職員 4 名で配置しており、派遣職員は民営化することのバックアップ要員として動いている。4 人が抜けても、手薄にはならない。（日野市）

※質問が正確に聞き取れていない部分があり、回答がずれてしまいました。（4）の質問 2 および 6 で同様の質問をいただき、回答をしておりますのでご参照ください。

質問 2 コンシェルジュは具体的にどのくらいの頻度で、豊田保育園を見に来たのか。また、コンシェルジュからの報告は資料にはないのか。

回答 2 コンシェルジュは週 1 回以上来ている。保育課職員も同様。資料の報告内容は、馬宮園長とコンシェルジュの見解が一致しているため、あえてコンシェルジュからの意見等は載せていない。（日野市）

意見 1 お金をかけて、コンシェルジュを雇い、週に 1 回以上来園しているのであれば、園長先生以上の何か感じるポイントをあげてもらいたい。今のままだと園長先生を感じる園の状況を保護者に共有するので、いいのでは？コンシェルジュを雇う意義がわからない。

回答 1 馬宮園長と同じく、公立保育園園長経験者であり、同じ視点になると思う。（日野市）

(2) 引継ぎ終了後のフォロー体制について

質問 1 職員の異動の頻度は、公立保育園と比べてどうか。民間保育園では就労関係で保育士が辞めていくという話をよく聞くので、入れ替わりが激しいという印象を持っている。ねぐるみ会に限らず、民間保育園で大量退職があった場合など、市はどのようなフォローをするのか。

回答 1 職員数が減れば、保育定員が減るので、全保育園にとって重要な問題。保育士確保策については、運営費や資格取得支援など財政的な補助を実施している。また、市とハローワークの共催で、複数の民間保育園法人が合同で就職面接会を実施している。豊田保育園については、市のOB職員や、旧とよだの臨時職員19名中17名が豊田保育園を選んだ。保育士を大切にしている園だと感じている。(日野市)

質問 2 ガイドラインの①～③に書かれている内容は、他の民間園にも実施されている内容では。豊田保育園独自の取り組みは何かあるか。

回答 2 公立保育園長経験者の保育コンシェルジュが、今後も保育の質を見ていく。(日野市)

(3) これまでの主な取り組みについて

質問 1 ほぼ従来の体制のまま移行できたという数字的な部分は。

回答 1 市のOB職員1名や、旧とよだの臨時職員19名中17名が豊田保育園に来てくれた。(日野市)

(4) 保育の引継ぎ等について

質問 1 資料にある引き継ぎの計画は誰が立てたのか。

回答 1 年度当初から、派遣保育士が引いていった場合も考慮しながら、引継ぎの計画を立てている。突然この4名がいなくなっても困らないよう4月から順序立ててきた。5月に子どもが落ち着いた様子を見て、6月にフリー保育士を入れるなどの計画を立てた。ねぐるみ会が主体になってやっていく、という事を考えて進めていかなければと考えている。(ねぐるみ会)

質問 2 7月の総仕上げというのが、豊田保育園としての考えという事は分かった。しかし、派遣期間はガイドラインにある1年ではないのか。

回答 2 ガイドラインでは、公立保育園の運営を引き継ぎ、保育環境の変化による負担を最小限とするため、事業者が履行すべき事項として

① 民営化の1年前から、事業者の保育士がとよだ保育園の保育に入り、引継ぎ準備を開始すること。

② 民営化開始直後に保育内容が激変しないよう、事業の引継ぎを行うこと。

③ 民営化後も、とよだ保育園の1～4歳の各クラス担任を、民営化後の2～5歳クラスに1年間派遣し合同保育を実施すること。合同保育の期間については、子どもたちの様子や園の運営状況を勘案し、三者協議会の決定により短縮できるものとします。

が記されている。これまでの取り組みと、現在の運営状況を勘案して判断した。4～

5月で子どもの様子が安定したので、6～7月で充実保育士の引継ぎや総仕上げという園の考えのもとに立っている。(日野市)

質問3 引継ぎの計画性に疑問を感じる。7月に総仕上げする必要は全くない。年度途中で派遣保育士が引く事での影響はあるはず。元々決まっていた1年間の中で、すべての行事を見てもらえる方が安心では。

回答3 ガイドラインの解釈は、園の様子で期間は短縮され、最大で1年間という考え。昨年1年間の合同保育期間中については、ねぐるみ会から派遣されていた4名を担任として1年間位置付けていた。区切りが未定だったので、派遣保育士が途中で引いていく事も考慮し、様子を見ながら、早めに運営できる体制づくりを実施してきた。その結果として、7月に総仕上げという状態まで持ってきた。どこの保育園も同じで、確実に何も起きないとは言い切れないが、ねぐるみ会の職員だけでやっていく目途はついた。(ねぐるみ会)

心配されるお気持ちも分かる。今までの引継ぎ等の準備等により基盤が整ったこと、子どもや園の様子が落ち着いたこと、園の運営の状況などを勘案して、豊田保育園として6～7月の引継ぎの計画が立ち、大丈夫だと判断したと思う。ねぐるみ会の職員が団結し試行錯誤し、あわせて保護者のご理解をいただきながら、豊田保育園の保育を完成させていく事になると思うので、ご安心いただきたい。(日野市)

意見1 ねぐるみ会が説明する派遣期間の最大1年間という解釈は認識違い。短縮できると記載があるものの、ガイドライン上、派遣期間は1年間実施することと明記されている。計画は1年間の中で策定されるべきで最大1年間と考え引継ぎを計画すること自体が間違っている。

なお、派遣期間の1年間は、ガイドライン策定時に保護者側から強く提案したことで、たかはた(むこうじま保育園)の民営化の事例を参考に提案している。たかはた(むこうじま保育園)の民営化の際には、派遣期間が半年程度と短く引継ぎが十分できなかったため、派遣された保育士達に悔いが残ったとも聞いている。ガイドラインは市が策定するもので、保護者の提案だけで内容が決定されるものではなく、現在の内容(短縮できる内容)となっているが、そのような経緯からしても、1年間という期間の中で引継ぎは計画されるべきである。

質問4 どの状況をもって、派遣期間を短縮すると判断するのが明確ではない。年度途中で引き継ぎが終わるのは疑問を感じる。ガイドライン策定当初も、保護者からは1年間やってほしいという願いがあったはずだが。

回答4 回答2と同じ。(日野市)

質問5 7月末の子どもの様子が大丈夫というのを、どの時点でどのように判断するのか。

回答5 園の様子では6月で大丈夫。現在も引継ぎの動きや内容を詳細に計画立てている。他にやらなければならないこととしては、ホームページの開設や、公立園のマニュアルを土台として豊田保育園のマニュアルの整備。保護者にも協力いただき、7月と考え

ている。(ねぐるみ会)

質問6 資料には7月に総仕上げという表記があるが、派遣期間の終了は決定事項か？これからの課題は？日程の決め方は？

回答6 これまでの取り組みがあり、基盤を整えることが出来た。4～5月と派遣保育士のフォローがあり、現在の子どもの様子を見てきた中で、具体的な課題を抽出して現在の引継ぎに至る。7月が終了時期と考えるが、決定事項ではない。

今後の課題は、ねぐるみ会職員が責任と自覚をもって、豊田保育園としての保育を確立する事。これに向けては、派遣保育士がいるので頼ってしまうという状況が出来てしまっては保育の確立は難しく区切りのタイミングかと考える。これについて、ねぐるみ会とも意見は一致している。

スケジュールの見込みは市から一方的には示せない。子どもの様子を第一に、というのが適切かと考える。(日野市)

質問7 民営化前に市から派遣期間終了が提案され、保護者ともめる事になった原因は何か。市への不信感が強くなっており、保護者の意見集約が難しい。市から提示のあった文書は掲示しているが、おそらく全員は読んでいない。

回答7 民営化に向けた取り組みに加え、昨年11月頃には、臨時職員を含めた職員体制がほぼ従来の体制のまま移行できる目途が立ち、子どもや園の様子が安定するのが1か月くらいという考えがあった。これを民営化前に子どもの様子を見ずに判断してしまい、保護者からおしかりをいただいた。

期間の話ばかりが先行してしまい、子どもの様子について配慮していたものの、説明しきれていなかった。現在、詳細な引き継ぎを園にて実施しており、園の様子からも7月であれば大丈夫だと考えており、その方針で進めていきたいと考える。(日野市)

意見2 顔をよく知る保育士が年度途中で複数抜けるのは、子どもへの影響があるので、心配であり、一年間やってほしいという願いがある。短縮による子どもへのプラスの影響はどこにもない。そもそも短縮する必要性はどこにあるのか。個人としては短縮には反対。

回答2 意見として承る(日野市)

気持ちはわかる。豊田保育園を自分たちで作るという意識が職員間でも芽生えている。派遣職員がいる事での、派遣職員とねぐるみ会職員の職員同士の関わりが難しい。説明がうまくまとめられず申し訳ない。(ねぐるみ会)

意見3 うさぎ組は幼児クラスになるので、変化が大きい年。保護者間で不安の声も聞かれる。担任を減らすという大人の都合で、子どもに対してストレスを与えるなどの影響があるのはいかなものか。

回答3 3歳児については、保育参観でも同様の意見をいただいたので説明をしたが、夏休みを過ぎると、乳児から幼児へと成長する段階。26名は多いとは思いますが、フリー保育士で今までも対応してきている。引き続き同様に対応していく。(ねぐるみ会)

(5) その他

質問1 ガイドラインに書かれている内容や、その重みなどが分からない。

回答1 (4) 回答2と同じ。

ガイドラインは、保護者とともに策定してきた。③に記載のとおり、「合同保育の期間については、子どもたちの様子や園の運営状況を勘案し、三者協議会の決定により短縮できる」となっている。園の状況については保護者面談や参観日を通じて、子どもの様子を見ていただいていると思う。(日野市)

質問2 豊田保育園は市内で2例目の民営化園。派遣期間について、むこうじま保育園での教訓は生かされているのか。派遣される先生、受け入れる新園側のモチベーションの問題などは当時から議論されていたようだが、今回も同じではないか？

回答2 当時むこうじま保育園に派遣されていた保育士からも実情を聞いている。豊田保育園の保育の確立に向けては、自覚や責任といった部分が大切と考えている。むこうじま保育園では、派遣保育士と菊美会職員の意識の共有が図れず、これは保育にも影響していた。(日野市)

意見1 市の配置基準について。1歳児の職員配置基準を手厚くしてくれているのであれば、3歳児も同様に手厚くしてほしい。

回答1 公立保育園(1歳児から始まる園)には、5:1という基準でも大変なので、3ヶ月要員という職員がカバーしている。現在豊田保育園では1歳児は8:2、2歳児は12:2。3ヶ月要員ではなく、臨時職員が1年間主要な時間にカバーしてくれる体制をとっている。現在、3歳児には、出向の先生が入り3名で保育をしているが、その後は、主要な部分でフリー保育士を配置する事で対応していく(ねぐるみ会)

意見2 ガイドラインについて。派遣期間が三者の協議により短縮できるという記載自体があいまい。

回答2 ガイドライン策定の段階でいろいろあったと思う。民営化に際しての日野市全体の状況があり、不確定要素に対応しつつも、状況変化などを考慮して色々な項目が加わり現在の形になった。(日野市)

意見3 民営化については、仮園舎の件や派遣期間の件など、毎年何かしらの変更があり、保護者側もその対応に追われストレスがかかる。今後の民営化の事もあり、保護者への配慮をお願いしたい。

回答3 意見として承る。(日野市)

意見4 園の日頃の対応に感謝している。民営化には待機児童解消という問題も絡んでいるという市の説明があり、現在の市の待機児童解消の取り組みも評価している。派遣期間の決め方について、民営化に向けたこれまでの対応はガイドラインに沿ってきたのに、派遣期間短縮では、まさか12ヶ月を1ヶ月にまで、いきなり(11ヶ月も)短縮し

ようとしたのは強引に感じた。7月という派遣期間終了のタイミング案は、適切なの
かは分からないが、順番としては、逆で12ヶ月が11ヶ月、10ヶ月…というやり
方が正しかったのでは？一番、最短の1ヶ月という提案が日野市からあり、その後、
1ヶ月ずつ伸ばしていると、とらわれても仕方がない。また、子どもの状況を第一に
考えてほしい。一方では、派遣保育士4名のおかれている複雑な状況も理解できる。
出向期間に関しては、5月末から1ヶ月ずつ伸ばすのではなく、半年など、区切りの
いいタイミングを示してほしい。そうでないと保護者の理解が得られないのではない
か。

回答4 意見として承る。(日野市)

意見5 公立とよだ保育園の民営化については、当初から市の事業進行の中で、現在策定され
ているようなガイドラインは無く、運営事業者についても特定の社会福祉法人ありき
の状況で進行しようとしていた経緯があり、とよだ保育園保護者会側からガイドライ
ンの策定等をはじめ、様々な観点で提案や要望を出したうえで現在の形となっている。
また、そもそものところ而言えば、現在きりん組で、1歳児クラスから在籍している
数名については、入園前に園の民営化や民営化に伴う保育士の交替等について説明を
十分受けずに入園し、入園後にその事実を知ったということもある。これらの経緯等
は十分配慮されるべきであり、保育士の派遣期間の件についても、ガイドライン上に
明記される1年間という期間をあえて短縮することなく、園の引継ぎ、保育の安心・
安全のために最大限活用していただきたい。